

## まえがき

この度、第8回日本語教育連絡会議をポーランド国立アダム・ミツケヴィチ大学にて開催できましたことを、私ども一同大変光栄に存じております。この会議の開催にあたりましては、国際交流基金より助成金をいただくことができ、恵まれた条件のもとで会議を行うことができました。また、御協力いただいた在ポーランド日本大使館の方々や、常に日本側からアドバイスをくださった土屋千尋氏をはじめ、参加者の皆様、並びに様々な形でこの会議を支えてくださいました方々に心より御礼を申し上げます。

今回の会議には10人が日本から、21人がポーランド、31人がヨーロッパその他の国々から参加され、ボランティアに当たった本日本学科の学生も含めると、計70人の参加者を数えました。これだけ多くの方が本学での会議に参加してくださったことにより、普段あまり日本に接することのない本学関係者の、日本への関心を高めることにもなったと思います。また、このような機会にポーランドにおける日本学発展の歴史に関する講演をお聞きいただき、展示資料も御覧いただけたことは大変嬉しい限りです。

この会議の参加者は年々増える傾向にあるようです。会議が始まった当初と比べると、今では何倍も情報が得やすくなった（とくに旧東欧圏）とはいえ、人々が集まり、議論し、情報を交換するという場が意外に少ないのかもしれませんが。参加者の皆さんは自由時間や睡眠時間を削ってまで活発な情報交換を行っておられ、プログラムの不足分は皆さん自身で補ってくださったように思います。

さて、この会議での発表がここにまとめられました。今回は例年とは異なり、日本ではなく会議開催地ポズナニ市で印刷・出版することになり、タイトルに英語の表記が加わったこと、大きさが例年と違うものになったことにお気づきだと思います。この報告書をできるだけ多くの方に読んでいただき、日本国内外での日本語教育のお役に立てば幸いです。

アダム・ミツケヴィチ大学  
東洋学・バルト学科  
学科長 アルフレッド・F・マイエヴィチ

